

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.91]]]]]]](2004.4.2)

甲府で「山本美保さん問題についての説明会及び意見交換会」

明日4月3日、6時45分から甲府市の県立文学館講堂（甲府市貢川 1-5-35）で山本美保さんの同級生の会と地元池田地区自治会連合会共催で上記の会が開催されます。ご家族（森本美砂さん）、主催者、関係者の挨拶と調査会代表荒木の講演が行われます。山本美保さんの事件は解き明さなければならない点がまだ非常に多く、今後徹底した真相究明を求めて地元支援団体も調査会も活動を続けていきます。お近くの方はぜひご参加下さい。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.92]]]]]]](2004.4.5)

山本美保さん関連集会の資料

以下は去る4月3日、甲府市で開催された「山本美保さん問題についての説明会及び意見交換会」の資料です。主催者である同級生の会の方が作って下さいました。資料自体には表もついているのですが、メールニュースでは掲載できないため省略し、それにともない、本文も一部直してあります。ご家族は今週県警本部に漂着した遺体に関する資料を閲覧しに行かれます。

なお、このご遺体がたとえ山本美保さんでなかったとしても、少なくとも20年前に一人の女性が亡くなり、ご家族にも知られずに山形に埋葬されておられることは事実です。なぜか遊佐町にはこのご遺体を含め3件の身元不明遺体が昭和54年から59年の間に集中して漂着しているとのこと。調査会としてはそれらの事件の拉致との関連もあわせて調べて参ります。

去る、3月5日、全国に「山本美保さん、山形の遺体とDNA一致。自殺の可能性・・・」という報道が流れました。ご支援下さっていた方々には大変な衝撃が走ったことと思います。美保さんとの再会を願っていた私達にとっては震えるほどのショックでした。しかしながら、20年も身元が分からず、遠い所に無縁仏でいた美保さんの遺骨が、山本家のお墓に埋葬されるのであれば、皆様に署名などご支援いただいたお陰で、美保さんの行方の真相が究明できたのだと、気持ちを落ち着かせておりました。

ところが、県警の発表の時点から矛盾点が次々に浮かび、このご遺体が美保さんであるとは到底納得できない状態になりました。私達は11日に県警に対して「質問状」を提出し、様々な疑問点に答えて下さるよう要求しました。17日に回答書が返ってきたのですが、納得できるどころか、又更に疑問点が増え、家族は苦しい気持ちで一杯になっています。

家族はもちろん、私達支援団体も真実が知りたいだけなのです。あの山形のご遺体が、本当に美保さんなのであれば、一刻も早くご供養してあげたいのです。しかし、納得の出来る説明が県警から得られず、到底今回の発表は受け入れられる物ではありません。

家族や支援団体が矛盾に感じている事を記述いたしました。是非、皆様にご覧になっていただきたいと思っております。

(1) 何故、今になって山形のご遺体との照合をしたのか？

美保さんが消息を絶ってから4日後、新潟県柏崎の海岸に美保さんのバッグが置かれているのを発見。家族は新潟県警からの連絡を受け、柏崎へ向かい、翌9日には新潟県警へ捜索願の届けを出している。

その12日後、山形県遊佐町の海岸にて身元不明死体が発見されている。失踪日、発見場所、性別からいって、この時に照合されたのではないかと考えるのが普通である。

翌年(1985年)4月15日には山梨県警に捜索願の届け出を出している。7月3日に県警防犯課の方から「美保さんに関して依然、情報無し。本人と思われる該当者もない。」と、家族に連絡を頂いている。回答書によると、その2日後に山形のご遺体の情報を県警は入手したとなっている。失踪日、発見場所、性別からいって、この時にも照合される機会はあったはずである。

失踪2年後(1986年)12月2日には、富山県の身元不明遺体の照合。富山県警から連絡があり、そのご遺体の特徴として歯並びのこと、靴のサイズの事を聞いたが違うことが判明して、家族はホッと安堵した事がある。

失踪4年後(1988年)11月29日には東京の身元不明遺体との照合。警視庁から連絡があり、性別などから美保さんの可能性があり・・・と言う連絡だったが照合の結果、違うことが判明した。又、この時も結果を聞くまで、家族はひどく動揺していた。

これらを総合的に考えると・・・

県警防犯課の方も美保さんの情報に対して意識して捜査してくれていたことが分かる。ならば、山梨県警は1985年7月5日に山形のご遺体の情報を入手しているのに何故、照合しなかったのか？

又、身元不明遺体の中で、どこかしら美保さんと思われる項目のある遺体に関しては、連絡があり、照合している。山形のご遺体には、照合する以前の段階で、美保さんではないと確定できる物があったため、照合に至らなかったとしか考えられない。警察の見落としであれば、山形のご遺体に関してのみ、偶然に何回も見落とししていることになる。とても、不可解である。

(2) DNA鑑定結果が出るまでの経緯に対する疑問

回答書によると、2002年10月23日に「山形のご遺体に対して着目した。」と書いてある。何故、今頃？と、かなり不思議に感じるころではあるが、この時点でやっと着目したとすれば、着目したのであればすぐに家族に連絡を入れ、遺留品の確認、遺体の特徴の照合などを行うはずである。

2002年12月5日、新潟県警から2名、山梨県警から3名、計5名で山本家を訪問し、捜査の近況報告をして下さった。18年前、失踪当時の新潟の天候の調査、又、その当時、バスや電車の会社に勤務していた方々への聞き取り調査も行っているが手がかりがないとの事。新潟県警、山梨県警共に、「手がかりが全く無い状況なので、今後もあらゆる面から捜査をしていく。」と、家族に伝える。回答書の通り、10月23日に山形のご

遺体に着目していたのであれば、何故、家族に伝えないのか？

11月19日には骨髄が保管されている事が判明しているのであれば尚更、詳しく説明し、DNA鑑定の前に遺留品などの照合も行われるはずではないか？

2003年4月26日、県警は家族に対し「山形の遺体とのDNA鑑定をするため美砂さんの血液を採取したい。」と伝えたとあるが、家族はそうは聞いていない。「これから、全国の身元不明者に対してDNA鑑定をしていくので美砂さんの血液を採取したい。」と聞いている。その後5月7日に血液を採取して提供している。しかし、拉致議連の役員に対し、警察庁の幹部は「家族がDNA鑑定に非協力的だった。」と言っていたという。これは、どういう意味があるのか？美砂さんが血液採取に非協力的だったなどという事実は全くない。「家族を捜してください。」と頼んでいる立場で、捜し出すための協力を嫌がるわけがない。何故、そのような事をわざわざ拉致議連の役員に伝えたのか、とても不思議である。

回答書によると2003年5月、警察庁科学警察研究所に第1回目の鑑定に出したとなっている。DNA鑑定などという大事な話を家族に全く伝えずに行ったのか。山形のご遺体に着目したのが2002年10月23日という事だが、それから7ヶ月も家族に何も伝えず、遺留品その他の照合もせず、何も知らせずにDNA鑑定をするという不思議な経緯である。骨髄が保管されている事を知ってから6ヶ月が経っている。

この6ヶ月間に遺留品などの照合がされていたのであれば、まだ、分かるのだが……。それにしても、一つひとつの事が行われるまでの異様な長い期間は何なのであろうか？しかも、家族には何も伝えずに……。

普通に、常識的に考えて、このような「伝えた。」「聞いてない。」の矛盾があるものだろうか？「DNA鑑定の結果、山形の不明遺体に美保さんの可能性があります。」

しかし断定的ではないので2回目の鑑定に出します。」などと言われ、家族がその事を聞き逃したり、忘れたりするわけがない。それどころか、2回目の鑑定結果が気になって仕方がないはずである。これは、かなり無理のある県警の回答書である。何故、このような常識的に考えても変な回答書の記述をするのか？何のためにこのような記述をしたのか、とても不思議である。しかも、6月上旬に出た鑑定結果を7月22日に伝えたという事になっている。1ヶ月以上も経過しているのは何故？今回の「DNA一致」の県警の報告は、まだ手元に鑑定書が来ていない段階で、慌てて美砂さんに連絡を入れている。

回答書によると、2003年10月上旬、名古屋大学に鑑定を依頼。と書いてあるが、第1回目の鑑定の鑑定結果が出てから再鑑定の依頼まで4ヶ月も経過している。鑑定に出してから結果が出るまで又更に5ヶ月。再鑑定の依頼までの4ヶ月は何をしていたのか？

回答書によると、遺留品の照合の時に家族に「DNA鑑定を行っていることを伝えた。」と又、明らかな矛盾を記述している。表の、8と同じく、そのようなことを伝えられて、家族が忘れるかどうか常識的に考えて分かる話である。

- ・山形の遺体発見から、このご遺体に県警が着目するまで【18年4ヶ月】かかっている。
- ・山形のご遺体に着目してから、家族に遺留品の照合を行うまで【1年と14日】かかっている。
- ・山形のご遺体の骨髄が保管されている事が判明してから、DNA鑑定に出すまで【6ヶ月】かかっている。
- ・再鑑定に出すまで【4ヶ月】かかっている。

以上、他にもあらゆる事に対して時間を掛けてきたにもかかわらず、3月4日夕方・・・電話連絡での確認だけ、鑑定書が手元にない状態で慌てて美砂さんに連絡を入れている。「昭和59年6月に山形の海岸で上がった遺体と美砂さんのDNA鑑定の結果、一致しました。明日、午前中に名古屋に鑑定書を取りに行ってきます。」何故、この時だけ家族に対する説明が迅速だったのか？

これらのことを総合的に考えると・・・

山形のご遺体とDNA鑑定を行っていたと言うことを知らされたのは3月4日が初めてである。伝えてもないことを「伝えた」とわざわざ回答書に書くことに不信感が募るばかりである。この様な、矛盾だと分かり切った内容が記述されている回答書を見たことにより、さらにDNAの鑑定を行う経緯に関して、信憑性が感じられない。

(3) 発表に対する疑問

3月5日・・・県警側3名、家族は美砂さんと義弟の直行さんで入室した。県警側は執拗にお母さんの同行を求め、第3者(支援者)の入室を頑なに断った。DNA鑑定の専門家が同席しているわけではなく、「私達にもよく分からないのですが、この数字を見て下さい。ここに99.999973...と書いてありますね。これが一卵性双生児という事なんです。」と伝えられた。「骨髄は2度の鑑定で使い切りました。又、鑑定書はプライバシーの問題なので家族以外には見せられない、転写して持ち帰ることも駄目です。」と言われる。遺留品が違う遺体だと認識している家族に対して、このような状況で、美保さんの遺体だと納得しろと言われても、無理なことである。まだ、家族が説明を受けている最中なのにも関わらず、フジテレビが「山本美保さん遺体発見。自殺の可能性・・・」と報道をする。自宅にいて、何も知らされていなかったお母さんは、報道により知らされることになる。このあとの警察発表の内容と全く同じ事がすでに流されていた。どういうルートで、フジテレビは家族より先に知っていたのか？

(4) 遺留品確認に対する疑問

2002年11月7日に美砂さんが、2003年1月27日にお母さんと美砂さんが「山形で上がった遺体の遺留品です。確認して下さい。」と言われ、遺留品の確認をしている。

下着類（ブラジャー、スリッパ、ショーツ）、ネックレス、Gパンの写真だった。下着類全部とネックレスは「美保の物ではありません。」と断言しているが、Gパンという物は写真だけでは分からない。誰でも同じような物をはいているわけで、よほどの特徴がない限り、美保さんの物かどうかは断言できない。これも、常識的に考えてよく分かることだと思われる。ところが、回答書には「遺留品に関して、家族は写真だけでは判別できないと答えた。」と書いてある。Gパンについての事だけを回答書に記述する意図は何なのか？都合の良い書き方を何故するのか？遺留品のサイズ、メーカー、素材などその他について県警側の把握が出来てもない段階で、DNA鑑定だけに結びつける強引さが不思議な感じさえする。山形のご遺体が本当に美保さんなのであれば、遺留品が違う事についてどう説明するのか？

(5) その他 A

- ・山形のご遺体に関する酒田署の発表を、当時の新聞で確認
- ・その発表を確認しての矛盾点
- ・それらの矛盾点を踏まえた上での質問状に対しての県警からの回答書

この3項目を次のようにまとめました。

1984.6.22の新聞による酒田署の発表

このご遺体が美保さんと仮定した場合の矛盾点

質問状を受けての県警の回答書

(1)

両足、右腕のない遺体

両足、右腕のない状態で、他の理由が明確でないまま「自殺の可能性」と発表する事にも無理がある。

両足の欠損には、「スクリューによる痕跡が認められ」と記述。しかし、右腕の切断の痕跡には触れていない。

(2)

女性は20歳～40歳

美保さんは当時20歳なので、ギリギリ該当する。

女性は20歳～25歳

(3)

小柄

20年前の女性で「小柄」というと150cm前後ではないか？美保さんは身長160cm以上ある。

身長160m~170cm

(4)

遺留品 ピンクのブラジャー、白のスリッパ、紺のGパン、白いネックレス

これらの遺留品について「美保の物ではない。」と家族は断言している。

遺留品については変更無し

(5)

死後1ヶ月～2ヶ月経過

美保さんが失踪してから17日、バッグが柏崎で発見されてから13日しか経っていない。

死後3週間～3ヶ月経過

(2)の年齢の幅が縮まった事もそうだが、特に(3)の身長が「小柄」という表現から「160cm～170cm」に変わったのは何故？そんなに差が出る物なのか？(5)の死後3週間から3ヶ月となり、2週間ほど早まった。それにしても、失踪後17日、バッグ発見から13日の美保さんには誤差が大きすぎないか？

その他 B

3月17日、県警が回答書を山本家に持って来て下さった時の事である。「これからもあらゆる場合を想定して、捜査を継続します。」との説明に対し、支援者の一人が「では、何故3月5日の広報文に“自殺の可能性”とだけ書いたのですか？」と質問をした。すると「美保さんは拉致の可能性もあり、事件性も考えられ、自殺の可能性もあると思っています。美保さんは拉致の可能性が大だと言うことは周知のことですのであえて“自殺”だけ書きました。」と答えた。「ああいう広報文だと、世論は“自殺だったんだ”という認識になっています。」と言うと、「それは心外です。」と答えた。この会話を聞いていて、あまりにも常識的でない言葉の使い方の違和感を感じた。

その他 C

県警の回答では山形のご遺体を美保さんだと判断した理由にDNA鑑定を決め手としながら、「新潟県から山形県への海流等の捜査」を含め「総合的に判断」したとしている。確かに柏崎周辺の海流は一般的には対馬暖流の影響を受け北東方向に流れているが、その流れは一定ではなく、当時の海洋速報によると、佐渡海峡を東北から西南に向かう流れがある。つまり、山形とは逆方向である。また、この流れに乗らず北東方向に向ったとしても柏崎から遊佐までは直線距離で約200キロあり、0.3ノットでまっすぐに向ったとしても15日かかる。しかもその途中には信濃川と最上川の河口があり必ず一旦は沖合に流される。対馬暖流に乗った場合は佐渡沖を迂回するので、距離は350kmにもなる。13日～17日と言う期間で流れ着くのは不可能と言える。海流を判断の材料の一つにあげているのは、これも又、無理のある話である。

美保さんは、特定失踪者の中でも、昨年暮れには「北朝鮮での生存確認」などと報道もあり、全国の方にも知られている存在ただだけに、今回の「遺体発見、自殺・・・」の報道は、全国的に衝撃が走ったと思われる。

今回の報道により、特定失踪者に対する国民の意識が一旦は薄れた事も確かにあるかもしれない。しかし、このような矛盾点が多い中で、家族への告知やマスコミと通しての報

道をした事を知り始めている今、更に拉致問題への意識が高まってきていることも感じられる。このような矛盾だらけの中で、自分の家族の生死を断定されるのは、誰もが自分の家族に置き換えて考えた時に納得が出来ないはずである。

私達は「真実を知りたい！」 ただ、それだけなのです。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.93]]]]]]](2004.4.9)

山本美保さんおよび平山政子さんについて

先日もお知らせしましたが、この7日、山本美保さんのご家族が山梨県警で問題の遺体の調書を閲覧されました。詳しいことが明らかになりましたらまたお知らせしますが、結論から言えばこのご遺体は山本美保さんではない可能性が高いようです。もしこのご遺体が美保さんでないとする、誰なのか、美保さんはどこにいるのか、DNA鑑定の結果はどうやってもたらされたのか、など、様々な疑問が湧いてきます。

また、昭和47(1972)年3月24日に青森市で失踪した平山政子さんについても不可解な情報が出ています。これは別件で逮捕され公判中の男が4月6日の青森地裁での証言(弁護士が代理で行ったもの)の中で知人が32年前に飲食店に勤める女性を殺害し、その知人と2人で青森市郊外に埋めたというものです。この女性のデータが平山さんではないかということで地元紙でも取上げられました。ただ、この証言も事実関係の不確かな部分が多く、別の事件を平山さんと混同している可能性もあるようです。

いずれにしても調査会としては一刻も早く真実に辿り着くよう調査を続けます。お気づきの点がありましたらご教示下さい。

法律家の会佐渡ツアーの一部日程変更について

すでにお知らせしてありますが、法律家の会主催の5月8～9日に開催する拉致関係の現場を回るツアーについて、若干日程の変更がありますので再度お知らせします。締切りは16日とのことです。お問い合わせは下の法律家の会連絡先(斉藤・小笠原法律事務所)までお願いします。

横田さん・曾我さんが いなくなった日... (大澤孝司さん)

～北朝鮮の拉致を考える現地調査の案内～

日時：5月8日(土)～9日(日)

参加費：東京 40000 円新潟 28000 円

今年3月佐渡市として出発した佐渡ヶ島。この島で30年前、一人の青年が姿を消した。彼の名前は 大澤孝司(おおさわたかし) 当時 27歳。

東京農大卒業後新潟県の土木技師になった彼の姿を1974年2月以後見た人はいない。曾我ひとみさんが、「拉致被害者」として帰国してから、「やはり孝司も！」と家族は、確信した。

曾我さんには、佐渡島に拉致の協力者のいた事実が判明した。

曾我さんと大澤孝志さんにはこんなに共通点があった。

	曾我ひとみさん	大澤孝司さん
場 所	佐渡郡真野町の幹線道路	佐渡郡新穂村の幹線道路

態 様	夕暮れ時幹線道路歩行中	夕食後幹線道路歩行中
生 活	単身寮生活	単身寮生活
犯行者	見知らぬ3人の男	見知らぬ2～3人の男

横田めぐみさんも自宅近くの幹線道路上から拉致された事を知った時、大澤孝司さんの拉致疑惑が地元巻町で大きく膨らんだ。

あなたも 拉致疑惑の現場に行ってみませんか。法律家も一緒です。

- 1日目： 東京 新潟
8:56 発
- ・新潟市内の横田めぐみさん拉致現場現地調査
 - ・新潟港万景号入港中であれば、これを見る。
フェリー(新潟港発 14:00)で佐渡島・両津港に渡る。
 - ・車で新穂村移動。新穂村で大澤孝司さん拉致現場現地調査
 - ・曾我ひとみさん(真野町役場)支援活動の紹介
 - ・曾我ひとみさん親子拉致現場(真野町国府川河口)現地調査
真野湾のホテルで1泊。(夕食懇親会)
- 2日目：
・佐渡ヶ島・宿根木の作業員上陸現場の調査
・佐渡ヶ島・小木(昼食) 新潟駅 東京
19:33 発 21:48 着

- ・横田めぐみさん救援関係者の説明を受けます。
- ・大澤昭一さん(大澤孝司さんのお兄さん)らの説明を受けます。
- ・曾我ひとみさんの参加があります。

申し込み先：北朝鮮による拉致被害者の救出にとりくむ法律家の会
事務局 斉藤・小笠原法律事務所
TEL (3253) 8138 FAX (3253) 8289

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.94]]]]]]](2004.4.16)

山本美保さんの件で中間報告

3月以来の山本美保さんに関する件で、本日以下の文書を発表致します。これは4月7日のご家族の山梨県警での資料閲覧の結果（まだすべてではありませんが）をふまえたものです。調査会としても今後さらに踏込んだ調査を続けて参ります。各方面のご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成 16 年 4 月 16 日

山本美保さんの件に関して

特定失踪者問題調査会

代表 荒木和博

既に報道されている通り、3月4日に山梨県警から家族に連絡があつて以来、遊佐町の漂着遺体（以下「Y」と略称）をめぐる様々な議論がなされている。この間、3月5日に県警の発表が行われ、それに対する家族、支援団体からの質問状が出されたのは3月10日であった。3月17日にその回答が届いたが、その内容は私たちの疑問を払拭するものではなかった。

さらに家族は4月7日、山梨県警を訪れYに関する資料を閲覧した。その詳細については県警の意向（捜査中の事件のため）によりここに記することはできないが、結論から言えば、現時点ではYが山本美保さんではないと考える要素しか出てきていないということだ。

これだけで軽々に「DNA鑑定が捏造されたものである」とか、「拉致事件に蓋をするための陰謀である」とか決めつけるべきではないが、「捜査中の事件」「家族のプライバシー（家族が希望している場合でも）」を盾に情報を公開せず、一方でDNA鑑定結果の通告のやり方や関係機関幹部の自殺を示唆する発言など、警察の対応には情報操作ともとられかねない面があることも事実であり、このままでは警察そのものへの不信感が高まり、さらには国家の根幹に対する不信感にもつながりかねないものである。したがって、警察にはその不信を早急に払拭することを求めたい。あわせて、山本美保さんの事件は特定失踪者問題全体にとっても大きな影響のある問題であり、ことは警察だけに任せ、責任を押し付けてすむ問題ではない。他の政府機関、民間も含めて真相究明の努力がなされるべきであると考えます。

- 1、Yと山本美保さんでは着衣のサイズが異なる上、その形態も家族が見たことのないものである。また、Yの歯の状況は外傷がないにもかかわらず上下13本が脱落するという、年齢や時間的な観点からも極めて不自然である上、治療痕なども美保さんのものと一致しない可能性がある。また、Yの遺留品について県警が家族に照会した折、家族は明確に美保さんのものでないと伝えているにもかかわらず「その際のご家族の回答は、この写真だけでは判別できない、わからない、との内容でありました」

(3月17日県警からの回答文)としたのはなぜか。Yが美保さんであるというなら、これらの疑問点について警察庁(あえて山梨県警ではなく警察庁とした)は納得のいく説明をしていただきたい。

- 2、県警の3月17日回答文では「DNA鑑定を行っていることはすでにご家族には伝えてありました」とされている。この点も家族の認識とは異なるが、さらに警察庁の幹部は「家族がDNA鑑定に非協力的だった」とまで発言したという。これは全く事実と異なるもので、このような重大な問題に対して美保さんを20年間必死で探し続けている家族が忘れて、非協力的であるということは考えられない。捜査記録はともかく、DNA鑑定書はYが美保さんであると断定しているなら科学警察研究所で行った鑑定結果も含め、警察庁はこれを公開すべきである。
- 3、警察庁の幹部は拉致議連の役員に対して美保さんが自殺したものとの見解を強く示唆している。3月5日の山梨県警の発表でも「自殺の可能性があるが、捜査を継続する」、17日の回答文でも「自殺によるものである可能性がある一方、拉致の可能性も完全には排除できない」として自殺を示唆している。しかし、自殺をする人が自らを特定されないようにわざとサイズの異なる着衣に着がえて入水することは考えられず、また、柏崎にバックを置いて入水したのであれば、海流の流れなどからして13日後に遊佐町に漂着する可能性はほとんどありえない。ならばYが美保さんであるという前提に立つとき、当然に事件であるという判断がなされるべきである。なぜ、あえて「自殺」を強調するのか、警察庁はその根拠を明らかにしていただきたい。
- 4、本件について、拉致議連は3月17日の役員会で警察庁に対し説明を求めているにもかかわらず、1カ月近く経た今も説明は行われていない。一刻も早い対応を求めたい。
- 5、私たちのもとには今回の警察の対応について、警察内部からも疑問視する声が聞こえてきている。また、拉致の視点からみた場合当然地元で協力者が必要になる。事件を解明する鍵はおそらく今も山梨県内にあるはずである。関係政府機関、報道関係者はそれらも含めて真相を明らかにしていただきたい。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.95]]]]]]](2004.4.22)

増元照明さんの参院選出馬問題に関して

特定失踪者問題調査会代表

荒木和博

すでにあちこちで報道されていますが、家族会の事務局次長であり調査会の常務理事でもある増元照明さんの参院選出馬が取沙汰されています。これについてたびたびお問い合わせを受けるので、ひとこと私自身の認識を申し上げておきます。

私は救う会事務局長在任当時、拉致被害者ご家族の選挙出馬の話を何度も潰してきました。それはかつて政治を職業としていたものとして、選挙の渦巻の中に巻き込まれた場合、身体及び精神的負担が尋常なものではなく、また、たとえ当選しても700人余の国会議員のうちの1人ではできることに限りがあり、かえって枠にはめられる分だけ本来の救出活動にも支障をきたすことが予想されたからです。

しかし、今回は私自身がけしかける方の立場に回っています。それは増元さんが若く、6年間ともに活動をしてきて人格識見及び体力精神力において選挙に耐えられると思ったことと、本人が、場合によっては拉致問題が棚上げされかねないという現状を打開しなければならぬという、焦燥ともいえる強い思いを持っておられるからです。また、9・17以後の国民の意識変化により、被害者家族の1人が国会に議席を得るということは極めて大きな意味を持つとも考えます。

もちろん、まだ情勢には流動的な部分が多く、今後の展開はどうなるか分かりません。それは選挙のみならず、5人の家族の帰国や北朝鮮の国内情勢変化など、様々な要因がからんでいるためです。場合によっては増元さんを使い捨てにしてしまう可能性すら存在しています。

そうなればけしかけた立場の1人として私にも責任があることは否めませんが、特定失踪者の問題にしても、あるいは蓋をされてしまうのではないかという危機感を持っているものとして、増元さんが出馬されるならそれによって何とか状況を打開していきたいという思いがあることも事実です。

増元さんのお父さん、故増元正一さんは一年半前に他界されましたが、意識を失う直前、照明さんに「わしは日本を信じる。だからお前も日本を信じろ」との言葉を残されました。単に身内を助けるということではなく、主権侵害によって家族を奪われた苦しみを持つ人こそ、そのようなことがない国を作っていけるのではないかと思います。

もちろん、私自身今回の参院選にはこれまでお世話になってきた方々、拉致問題に協力して下さった方々が多数立候補するためジレンマはあるのですが、いずれにしてもこの問題に真摯に取り組む候補者がすべて当選できれば日本は確実に変わると思います。

まだ不確定な部分も多く情勢は色々変化すると思いますが、私自身の思いを述べさせていただきます。ご理解いただければ幸いです。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.96]]]]]]](2004.4.30)

新ポスター完成

新しい失踪者のポスター(第4版)ができました。第3版の180人発表後に公開された12人を加え192人分が掲載されています。前のポスターで写真のなかった方の写真も入り、また一部の方は白黒だった写真がカラーに変更されています。

今回は人数が増えたのと若干デザインが変わったため個々人のデータは少なくなっています。ご希望の方には1枚100円でお送りします。送料当方負担ですのでもかく枚数×100円をお送りいただければ結構です。20枚程度まででしたら切手で必要金額分をお送りいただいてもかまいません。それ以上の場合は現金書留ないし郵便振替でご送金いただくと幸いです。

郵便振替口座 00160-9-583587 特定失踪者問題調査会

(郵便振替ご利用の場合は必ず「ポスター 枚送付希望」と通信欄にご記入下さい。ご記入がない場合はカンパとして処理されます)

山本美保さん関連

一昨日(4月28日) 当会代表荒木、専務理事真鍋、常務理事杉野の3名が警察庁を訪れ五十嵐外事課長から山本美保さんにかかわるDNA鑑定、山形県遊佐町の漂着遺体に関して説明を聞きました。

結論から言えば、警察の発表を新たに裏付けるものは出てきませんでした。DNA鑑定の手順やご家族への説明にかかわる事実関係についても疑問はまったく解けていません。現時点では「DNAが一致した」という警察の発表以外のほぼすべての情報は遊佐町の漂着遺体が美保さんと異なっており、何らかの作為的なものがそこに介在したのではないかと疑わざるを得ないのが実情です。

この件について実務の中心であった山梨県警の警備1課長は3月末で京都府警に異動していますが、可能であればこの元課長にも事情を聞くなどの対応も検討しています。私たちも、ご家族もこの遺体が美保さんであると証明されればそれを受け入れるしかないのですが、今のところはそれには程遠いという状況です。